

彗星だより

花山天文臺 中 村 要

1932 a (Grigg- Skjellerup) 彗星 Van Bierbroeck によつて観測された3月6日のものは疑はしい事が知れた。ベルゲドルフ天文臺のショール氏も3月末まで観測出来なかつたので、4月28日に Van Bierbroeck 氏が観測したのが発見になるらしい。事情が多少ヤムこしいので1932 aか dか分らない6月上旬には地球に0.25単位まで近づいて11等級となり大熊座を東進し1日に約3度動いた。観測と推算位置は餘りよく合はない。近日點通過は5月12日頃になる。甚だぼんやりした彗星であつた。

1932 d (Houghton-Ensor) 彗星 ホートン彗星は Ensor 氏にも4月2日に獨立発見された。此の彗星は急速に北進して5月10日頃に赤道を通過、此の頃には10.5等級であつた。5月末には急に滅光して豫定より

も淡く13等になつた。南阿ユニオン天文臺でよく観測された。花山では測微観測の機会を失つた。

1932 c (Carrasco) 彗星 カラスコ彗星は獅子座βの東を南下して6月上旬には13等となり観測が困難となる。各地の天文臺でよく観測されて居る。

Neujimin 彗星(1916 II) 此の週期彗星はベルゲドルフ天文臺のショール氏が100センチ鏡で3月26日より5月1日まで10回も探したが発見されなかつた。

Brooks, Kopff 彗星等の未発見週期彗星の推算は観測急報で發行するから希望者は筆者に申込んでほしい。(料金一回二錢)

訂正 6月號カラスコ彗星の日々運動に $+19'$ (?)とあつたのは $-19'$ であつた。

新刊紹介

J.H.ジーンズ著：宇宙の神秘（山村清譯：新物理學の宇宙像）

著者は既に天界誌上に於て讀者に見えた事のある理論天文學界の巨星であつて夙に物理學の方面に於てもその盛名を馳せてゐる。今回天文學教室の山村理學士の手によつて、「新物理學の宇宙像」なる表題でその翻譯が出来上つたのでこの機會に簡単な紹介を試みる事にする。

先づその第一章「滅び行く太陽」に於て舊時の天文學並に物理學の説く所とそれに依る人生觀が説かれてゐる。宇宙の宏大さを知り、滅び行く太陽を見る時、宇宙に於ける地球の貧弱さを慨嘆し人間の小さき營みのやがては無感覺な宇宙を残して滅んで行かねばならぬ事を嘆く。然しこの種の宇宙觀は新しき物理學の立場で見直す必要がありはしないか？

第二章「近代物理學の新天地」に於ては舊科學否舊時代の哲學が自然科學成立の一大鐵則と認めた因果律の起原に始まつて、それが新しい物理學殊に新量子論の展開につれ如何に崩壊したかが解説されてゐる。即ちハイゼンベルグ

等の不確定率に従へばある特定の原因より生れる結果は全く吾々の豫見を許さないのである。之こそは正に驚くべき事實である。更に又ド・ブロイ等の波動力学の基礎をなしてゐる電子並に陽核の廻折現象にふれ、電子を一種の「波」と見るド・ブロイ、ボーアその他の物理學者の電子の本質に關する考へを引用してゐる。

第三章「物質と輻射」は最も多分に天文學的知識を含んでゐる。エネルギーは質量をもつと云ふアインシュタインの説にとき起して太陽が放散するエネルギーの源を説明するには如何にしても物質の滅出(Anihilation)に依らなければならない理由を述べてゐる。このエネルギー滅出の手近な證據として近來發見された宇宙線を擧げてゐる。更に渦狀星雲の後退速度の大なる理由を説明するために、數年前ルメートル等によつて提出された膨張する宇宙の新説を紹介して、彼自身は寧ろツイキイ等の説く所に隨ふと述べてゐる。

第二章第三章によつて「物質宇宙は波から成る」と云ふ結論を得てゐる。第四章「相對性原理とエーテル」に於ては有名なマイケルソン・モーレイの實驗に始まつて如何にして吾人が靜止エーテルの存在を否定し、之に代ふるに相對性原理を以てしたかを説いて、相對性原理の説明にふれその意味を明にしてゐる。更に又今迄の重力の相對性原理の、電磁力への一般化の研究の問題にもふれてゐる。

以上の第四章に於て新しい物理學並に天文學の最も基礎的な部分に觸れてゐる、ジーンズ自らが説いてゐる様に、數學者に非ざる者は現代の物理學上の理論を把握する事は不可能事である。夫にも拘らず兎に角大體の輪廓ではあるが僅かな頁で然かも數式を用ひないで新物理學の基礎的諸問題を俎上にのせて可なりな程度にその説明を與へてゐる點は推奨に値する。

第五章「問題は混沌として」に於ては新物理學によるジーンズ自身の人生觀及宇宙觀である。彼に従へば現代の科學的宇宙觀は全くパークレーの觀念論的な見解と一致して「物」は、吾々個人を單位する所謂「Eternal spirit」の觀念として存在するのであつて、然もこの「精神」は言葉は不完全であるが「數學的」な方法に於て働くのである。この見地に於ては第一章の悲觀的な暗示は正に杞憂に過ぎないのである。

最後に科學批判にふれてゐるがこの點だけは全く肯定出來ない。科學の法則のもつ意味に對する正當な認識を缺いてゐるやうに思はれる。兎に角この最後の數頁を除けば新しい物理學及天文學の輪廓を知ると云ふ意味だけでなしに譯者の云ふ「新物理學の宇宙像」を如何に描くべきかをも併せて知る事が出来るだらう。敢へて一讀を奨む所以である。(定價壹圓八拾錢、恒星社)

會員に 關する 報告

〔入 會〕

高 本 禮 輔	名古屋市東區城番町14
田 中 武	善通寺高等女學校内
今 田 助 四 郎	香川縣仲多度郡高篠村大字東高篠
恩 地 豐	京都市左京區吉田中阿達町35篠田實方
酒 見 房 雄	廣島市藥研堀町
高 橋 眞 太 郎	京都市下京區佛光寺通烏丸東
榎 本 茂	東京市麻布區斧町126
立 花 太 郎	靜岡市靜岡高等學校寄宿寮
柴 田 富 太 郎	京都市下京區楊梅通新町東入

〔轉 居〕

堀 尾 實 善	(福 岡 縣)	築上郡推田高等實業校
土 井 一 人	(元大阪市)	岡山縣兒島郡宇野驛東 藤原芳夫方
田 端 實	(臺 灣)	新竹洲苗栗郡公館公學校
村上庫二郎	(京 都 市)	中京區御池通新町角 山田秀敏方
藤 與 三	(北 海 道)	小樽市綠町三丁目4の47
坂 本 鐵 馬	(福 岡 縣)	箱崎町阿多田川 原江頭方
森 正 次	(元シンガポール)	神戸市下澤通七丁目136
存 惠 梁	(神 戸 市)	灘區德井字中郷386
島 田 音 村	(和 歌 山)	和歌山縣日高郡和田村小學校
市瀬熊次郎	(長 野 縣)	下伊那郡喬木村小川分教場
山 田 誠 太 郎	(元靜岡縣)	山口縣小郡女子實業補習學校
山 根 良 平	(元京都市)	橫濱市神奈川區子安町海道通3204
佐 野 英 生	(元京都府)	山梨縣身延山東谷經泉坊内
白 石 祐 四 郎	(宮 城 縣)	仙臺市清水小路51
桐 田 尙 作	(北 海 道)	函館市五稜郭町14
吉 澤 益 雄	(元岡山縣)	神戸市神戸區元町一丁目 サイキ商店内
佐 藤 武 雄	(京 都 市)	京都市左京區神樂岡町24米田キミ方
濱 喜 代 治	(元 東 京)	長野縣上諏訪町大手町
石 栗 秀 一	(元 青 森)	青森市浦町橋本浦町高等小學校向加藤方
郷 原 季 雄	(京 都 市)	京都市左京區黒谷町19
田 原 四 郎	(京 都 市)	京都市左京區田中樋口町4の9齋藤梅次郎方
宮 川 一 男	(元 福 岡)	濱松市中島町326
邊 見 武 雄	(元 東 京)	東京府豊島郡上板橋4676 吉田藤次郎方
山 本 卓 二	(大 阪 市)	大阪市住吉區田邊本町八丁目2

〔訂 正〕

竹 村 藤 太 郎	京都市下京區新町五條下ル西入ル
小 林 孝	靜岡縣島田町4956